

SDGsの目標達成に関連する取り組み

町の取り組み(例) 自治体が行う施策の多くは、SDGsの趣旨を踏まえたものとなっています。

健康づくり事業

学校教育

産業団地整備

住環境整備

防災・減災体制の構築

住民と行政が一体となった協働のまちづくり

個人の取り組み(例) 誰でもできる「ちょっとしたこと」も、SDGsの目標達成につながります。

節電する

必要のない時には照明を消しましょう

リサイクルする

リサイクルできる資源はしっかり分別しましょう

食事を残さず食べる

「食べられる量の食材を買う」などの行動を心掛けましょう

節水する

必要以上の水を出さないようにしましょう

地域の活動に参加する

地域の方々と協力して取り組み体制を築きましょう

買い物にはマイバッグを持参

プラスチックのレジ袋を使うのはなるべく避けましょう



特集1 一人ひとりが考えて行動するSDGs

最近、よく聞くようになった「SDGs」という言葉を知っていますか？
聞いたことはあっても意味まではわからないという人もいるのではないのでしょうか。
SDGsに関する活動が各地で盛んに行われる中、今月号では「SDGsとは何か」を紹介します。
また、町内でSDGsの目標を達成するための活動をしている団体の取り組みを紹介します。

SDGsって何？
SDGs（エスディージーズ）は、2015年に国連で採択された持続可能な開発目標「Sustainable Development」(「持続可能な開発」) Development (「開発」) (「ディベロップメント」)「開発」)の理念のことです。
具体的には、貧困や不平等・格差、気候変動などの地球全体が抱える問題の解決を目指すため、17項目の開発目標を定めたものです。
この目標は、世界共通の認識として、私たち一人ひとりが力を合わせて取り組んでいくことが求められています。

SDGsを考えることは「みかわの未来を考えること」
SDGsについては、三川町でもこの趣旨を踏まえた施策を行っているよ。また、県や市町村のほか、個人や企業レベルでもSDGsの目標達成に向けて行動することが求められているけど、「私たちは具体的に何をすればいいの？」と思う人も多はず。
例えば、3ページのような「ちょっとしたこと」をするだけでも、みかわを始め、地球の未来を考えて行動していることになるんだ。これを踏まえて、4ページからはみかわの中学生・高校生が始めた具体的な取り組みを紹介するよ。



Team.RE:の目標「海ごみゼロを目指して自分たちができることを考え行動する」

主体
三川町中高生ボランティアサークル
来夢来人
本町の中学生43人、
高校生8人の計51人が所属。

コーディネイト
東北公益文科大学
地域共創センター
大学と地域を結ぶ窓口として、
学生団体と共に地域の課題解決や
地域活性化などをテーマにした
さまざまな活動を行う。

サポート
イビューサ
divusa
スコップ
SCOP
大学生のボランティア団体。
今回は東北公益文科大学の
学生がごみ拾いなどをサポート。

サポート
パートナーシップオフィス

Team.RE:とは

海ごみ問題の啓発や飛鳥の振興などの活動を展開する酒田市のNPO法人。
今回は海ごみ問題を学ぶための講師役を務める。

「RE:プロジェクト」始動!

活動①川ごみ・海ごみ事前学習

Team.RE:では、まず川ごみ・海ごみは何か問題なのかを知ることから始め、SDGsとの関連性を学びました。

「川・海にはプラスチックごみが多いんです。自然に還らないので、誤って食べてしまう生き物や景観に悪影響が出ています」
パートナーシップオフィス 大谷 明さん

川ごみ・海ごみに関連するSDGsの目標はこれだね

来夢来人の皆さん

活動②河川敷・河口周辺のごみ調査

次に、川や海の周辺にはどんなごみがあるのか、町内の赤川河川敷や酒田市の河口周辺で実地調査を行いました。

「やっぱりプラスチックごみが多かったね」「肥料袋とか農業関連のごみが多いのはこの地域ならではのね」

実際に落ちていたごみ

その結果...

肥料袋 ペットボトル・食器・コップ

活動を進めた来夢来人のゴール「みんなでプラスチックごみを減らそう」

東北公益文科大学の皆さんや一般の方も協力!

活動③自分ができることを考える

ここからは来夢来人のメンバーを中心に、川ごみ・海ごみを減らすために、自分たちはどんなことができるか話し合いました。

使い捨てのプラスチック製品はなるべく減らしたいね

再利用できるものを積極的に使いたいね

具体的には...

「みかわ秋まつりで啓発活動しよう!」

「みかわから、世界の海をクリーンアップ!」
中高生が始めたSDGsへの取り組み
～若者が“海ごみゼロ”の文化を育む～

協力：東北公益文科大学地域共創センター

今年5月、町内である団体が結成されました。その名も「Team.RE:(チームリー)」。Team.RE:では、本町の中高生ボランティアサークル来夢来人を中心に、大学生やNPO法人が連携・協力し、身近な環境問題について考え、持続可能な社会の形成に向けた活動に取り組んでいます。
※「Team.RE:」は来夢来人(Raimuraito)とエコ(Eco)の頭文字を取って命名。

身近な環境問題 「海ごみ」をなくそう!

Team.RE:では、SDGsに関連する課題の一つとして環境問題を取り上げ、特に本町の中心を流れる赤川周辺の「ごみ」に着目しました。

生活の中で置き去りにされたごみは、川や用水路などを通り、やがて海にたどり着き、川だけでなく海の環境にまで悪影響を及ぼします。自然豊かなみかわの環境を守るため、そして世界につながる海の環境を守るため、「川ごみ」「海ごみ」問題の解決に自分たちができることは何かを考え、SDGsの目標達成につながる活動に取り組みました。

「チーム結成のきっかけ 中高生が自ら行動する意識を」

来夢来人では、メンバーが「自ら行動する力」を身に付けようという考えを持ちながら活動しています。こうした目的を果たすため、地域と一体になって学び合える場づくりを行う東北公益文科大学地域共創センター(酒田市)と協力し、同大学の学生や協力団体の支援を得ながら「Team.RE:」を結成し、本町の中高生にSDGsについて考えてもらうための取り組み「RE:プロジェクト」を始めました。

協力者の声

“海ごみゼロ”の文化を広げるきっかけに

今回、来夢来人の皆さんからは私たちが以前から取り組んでいる「海ごみ問題」について一緒に考えてもらいました。この問題に関しては、近年、住民・NPO・行政・企業などの共創による活動、大学生独自の活動が盛んに行われていますが、中学生・高校生とも連携することで私たちの活動の裾野を広げることができ、うれしく思っています。若者が主体となってこの問題を理解し、広く発信することで、地域に海ごみ問題への関心を持つ人を増やし、より多くの人が関わり合いながら庄内から山形県全体、そして全国に「海ごみゼロ」の文化」を育てていきたいですね。



東北公益文科大学公益学部
教授 吳 尚浩さん
(地域共創センター 防災・環境部会長)

沿岸部だけでなく内陸部の人も関心を持って

海ごみの問題は、身近に海がある人だけの問題ではなく、全ての人に共通の問題と考えています。これは、海ごみの多くが内陸部から流れてくるためです。また、海ごみに多いプラスチックごみは、自然に還ることがなく、環境負荷が特に大きいものです。私たちは、このような点をより多くの人に伝えるために、大学や学生団体とも連携しながら啓発活動を行っていますが、来夢来人の皆さんにもこの問題について理解してもらえたことをうれしく思っています。



特定非営利活動法人
パートナーシップオフィス
理事 金子 博さん

中高生に私たちのクラブの思いを伝えたい

私たちのクラブは、主に環境保護の活動に取り組み、特に海ごみの回収は何度も行ってきましたが、活動が少し作業化していたところに飽きを感じていました。そんな中、初めて地元の中高生と一緒に活動ができ、新鮮な気持ちで今回のプロジェクトに臨んでいました。私たちの活動に対する思いを、来夢来人の皆さんにも感じ取ってもらえたことがうれしく、何よりも楽しく活動できました。



iyusawa山形酒田クラブ 代表
東北公益文科大学3年
小野寺 流菜さん

今度は来夢来人の皆さんから発信を

私は飛鳥や全国各地の海岸でごみ拾いなどの活動を行ってきた自分の経験、そして私たちのクラブが持つノウハウを、来夢来人の皆さんにも伝えたいという思いを持ってこのプロジェクトに参加しました。今度は来夢来人の皆さんが「海ごみ問題」の先生役として、自分たちが感じたことを地域に発信してもらい、より多くの人がこの問題の解決に向けた行動を取ってくれるようになることを期待しています。



iyusawa山形酒田クラブ メンバー
東北公益文科大学4年
佐藤 新さん

【お知らせ】
来夢来人の環境プロジェクト展「Save The Earth from みかわ」を開催します
みかわ秋まつりの特別展示として、Team REの取り組みを紹介するパネル展と、プラスチックごみの削減に向けて、来夢来人のメンバーが協力して考案したオリジナルエコグッズの販売を行います。来夢来人の活動の成果をぜひご覧ください。

令和3年度みかわ秋まつり
○日時 11月5日(金)～7日(日)
午前9時～午後5時(7日は午後3時まで)
○会場 三川町民体育館
○内容 来夢来人の環境プロジェクト展(グッズ販売は6日(土)・7日(日)のみ)、航空自衛隊「ブルーインパルス」パネル展示、町民による各種作品展示、物産販売ほか
○入場料 無料
※新型コロナウイルスの感染拡大状況等により、内容の変更やイベントの中止等の可能性がありますので、ご了承ください。
○問合せ先 町教育委員会 社会教育係(テオトル内) ☎64-8310

地域と大学を結ぶ窓口
地域共創センターの紹介

東北公益文科大学地域共創センターでは、今回紹介した海ごみ問題への取り組みのほか、地域が抱えるさまざまな課題について「学生と一緒に課題に取り組みたい」「地域と大学の学び合いの場を作りたい」といった、地元企業・団体・住民からの相談をお受けします。ぜひ、気軽にご相談ください。

○問合せ先 東北公益文科大学地域共創センター
☎0234-41-1115

▲詳しくはホームページをご覧ください

RE:プロジェクト関係者インタビュー

さまざまな方が協力し合いながら行ってきた今回のプロジェクト。中心にいた来夢来人の中高生が学んだこと。中高生をサポートした方々が伝えたかったこと。関係者の思いを聞きました。

来夢来人メンバーの声



鶴岡北高校3年 五十嵐 佳奈さん
三川中学校3年 大瀧 若菜さん
三川中学校3年 片桐 愛夢さん

海ごみの現状をより多くの皆さんに知ってもらいたい

今回のプロジェクトに参加して、赤川周辺や海岸に落ちているごみの量がとても多いことに驚き、残念に感じました。この現状をより多くの人に知ってもらい、自分たちも含めて「ポイ捨てをしない」「ごみが落ちていたら拾う」などの行動を起こす必要があると思いました。

楽しむときはごみの管理もしっかりと

ごみの実地調査の際、キャンプやバーベキューなどの際に使ったと思われる調味料の容器や食器といったごみが多く捨てられていました。今はアウトドアがブームになっていますが、ごみの管理をしっかりした上で楽しむことが大切だと思いました。



鶴岡中央高校1年
松澤 稜さん



鶴岡中央高校1年
佐久間 美羽さん

RE:プロジェクトの成果をご覧ください

海から遠く離れたところで捨てられたごみが、やがて海に流れつくということは思ってもみませんでした。実際、海岸には空き缶やペットボトルなど、私たちの身近にあるものがたくさん落ちていたのを見て納得できました。この現状が、環境に悪影響を与えていることをより多くの人に知ってもらうための機会として、私たちがみかわ秋まつりで行う企画を成功させたいです。